

編集委員が選んだ本

『秀吉の朝鮮侵略と民衆』

北島万次／岩波新書／2012年10月／760円（税別）

朝鮮水軍を指揮し秀吉の朝鮮侵略に抵抗した李舜臣は、戦争中の出来事を詳細に記録した『乱中日記』を遺した。「日記」には、勝利した海戦への評価や、敗戦に対する反省、明軍や国家上層部への不満などととも戦争に動員された民衆の姿がリアルに描かれている。海戦には船を操る船頭や、船漕ぎ人足が必要不可欠であるが、厳しい戦場に耐えかねて逃亡する者が続出した。逃亡を手助けする漁民も現れる状況の中で、捕まった逃亡者の多くは見せしめのために処刑され、晒し首にされている。水軍に動員された民衆は、奴婢などの賤身分が多かったことも注目される。

一方、朝鮮半島南部沿岸の「倭城」建設のために動員された日本の民衆も、過酷な労働と朝鮮軍の襲撃への恐怖から戦線を離脱していった。これが「降倭」である。配下を率いて投降した武将「沙也可」は有名であるが、本書では名もなき「降倭」に注目している。その多くは朝鮮水軍に編成され日本軍と戦ったり、女真族との戦いのために北方へ送られている。どの時代にあっても民衆こそが戦争の最大の被害者であることを訴えている。

『これならわかる 日本の領土紛争』

松竹伸幸／大月書店／2011年8月／1600円（税別）

新自由主義の下、内向き志向（思考）が広がっている。ナショナリズム（国家主義）が巧みにその意識を惹きつける。領土紛争は、当事者双方が自説を主張し、それに互いが反発し、関係は悪化する。著者は、竹島（独島）問題、東シナ海ガス田問題、尖閣諸島問題、北方領土問題をわかりやすく解説している。たとえば、一番難しいという竹島（独島）問題。“正確さを求められれば、「5分5秒」とか「6分4分」とかしか言いようがなく、（さらに強いて問われれば）「日本のものだと答えたい」という程度。最終的に竹島の帰属を決めるサンフランシスコ条約で、韓国側の要望を否定する形で決着がついたから。”と言う。1998年の日韓漁業協定は良い解決のモデルと成り得たのに、なぜひっくり返ってしまったか？ これからどうしていけばいいか？ 示唆に富んでいる。

『独島 Dokdo の真実を理解するための16ポイント』

韓国独立運動史研究所翻訳／独立記念館／2012年7月／非売品扱いにつき問い合わせは韓国独立記念館 tel 82-41-560-0114

日本外務省がHP等で発信している『「竹島」問題を理解するための10ポイント』に反論する形として韓国側が発行したもの。前掲の本を読んだ上で、日韓の政府レベルの主張の違いを検証してはどうだろうか。

『日本社会の歴史 上・下』

深谷克己・大日方純夫他／大月書店／2012年9月・11月／各2500円（税別）

待望の通史が刊行された。4月、新たに日本史を学ぼうという生徒が「日本史の流れを知りたい」とよくやって来る。手頃な通史を紹介したいが、それがなかなかなかった。その悩みを解消してくれたのが本書である。

生徒に勧めるにあたってのポイントは2つある。まずひとつが、歴史を作り上げてきた民衆の立場から歴史が叙述されていることである。民衆の思いや願いが時代ごとに丁寧に描かれており、「社会」の歴史と銘打っている所以である。もうひとつがアイヌや沖縄など日本社会におけるマイノリティの歴史が強調されていることである。前近代において、日本列島の北方と南方に独自の文化を形成していた人々が存在したという事実は、近代になって創られたにすぎない「国家」の枠組みで日本を捉えようとする、生徒の常識に揺さぶりをかけるに違いない。

『大川周明 アジア独立の夢』

玉居子精宏／平凡社新書／2012年8月／880円（税別）

ずっと思ってきた。私自身を含め、近代日本の戦争を「侵略」ととらえてきた人間は、もっと、玄洋社員とか、宮崎滔天たち「大陸浪人」と言われる人たちについて勉強した方がいいのではないかと。彼らを、たとえば一言で「右翼」とくくって終わりにしているから、「自虐史観」と「批判」する若者たちの心にとどかないのではないかと。彼らの「真のねがい」や「真の限界」をリアルにつかめてこそ、「大東亜共栄圏の幻想に対する批判」が説得力あるものになるのではないかと。

以上のような問題意識に引っかかりを感じる方は、この本を一読されたい。“真のねがい”“真の限界”に、リアルに迫ることができる本として、お薦めする。

『高校紛争 1969—1970』

小林哲夫／中公新書／2012年2月／860円（税別）

「2012年、1969年の紛争ピーク時の高校三年生は、還暦を迎えた」（あとがきより）という月日が流れた。

いまどきの高校生を見ていると隔世の感を禁じ得ないが、「そのちがいはどこからきているのか」と考察してみるのも、ナンセンス（これは当時の紛争時の常套文句だった）ではあるまい。この本は、文字通り全国の高校紛争を取材し、当時の「活動家」の生徒から一般教員、校長まで実にたんねんに聞きとりをして書かれた。

未熟さや暴力性などをあげつらって「批判」することはたやすい。だが、なぜあの現象が生まれたのか、の問いかけは、いまでも光芒を放っている。

定価 210円（本体200円） 編修・発行 実教出版株式会社 代表者 戸塚 雄次  
 2013年2月5日 印刷 発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5 Tel.03-3238-7777  
 2013年2月10日 発行 <http://www.jikkyo.co.jp/>